

令和6年度 学校経営報告

八王子市立第七小学校

校長 ●●●

ビジョンはちおうじの教育に基づき、自分の「みち」を、自信をもって歩む力を育むために、これからの社会を担っていく児童に生きる力を身に付けさせること。そして、地域運営学校として地域とともに成長し続け、学校・家庭・地域が連携して教育活動を進め、自分の住んでいる街に愛着をもち、その街に貢献していける児童を育成していくことが大切であると考えている。

第七小学校は、令和6年度に創立132年目を迎え、地域運営学校に指定され14年目となる。今年度も、各関係機関としっかり連携しつつ、学校運営協議会を核に地域運営学校としての体制の確立を図り、さらに地域の中にある学校という意識を醸成してきた。

また、令和6年度は、東京都の体育健康教育推進校の2年目となり、昨年度の課題を改善し、運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成してきた。

以下の視点から教育目標の実現を目指してきたことと次年度の課題について報告する。

【教育目標と目指す児童像】

○進んで学ぶ子ども〔学力の育成〕

基礎・基本を基に、自ら課題を見付け、自ら考え、解決する資質・能力を身に付け、多様な考えを理解し、学び合い自らの思いを表現できる児童。

○協力して責任を果たす子ども〔豊かな心の育成〕

教師や友達と学ぶ中で、他人の喜びや幸せ、苦しさや痛みを理解し、分かち合い、助け合いながら責任を果たすことのできる児童。

◎健康で、心豊かな子ども〔健康な体と心の育成〕※本年度の重点目標

進んで体を動かし、自分も友達も大切にしながら互いを認め合い、前向きに努力する児童。

【教育目標を達成するための目指す学校像】

① 児童が成就感や満足感を味わい学び合える学校

・全教育活動を通して、児童が主体的に学習に取り組み、自らの知・徳・体の成長を実感でき、自己肯定感を高められる学校。

② 児童が自分も友達も大切に、笑顔あふれる学校

・かかわり合い、学び合う活動を重視し、人権意識を高め、一人一人の個性を認め合える支持的風土のある学校。

③ 保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校〔開かれた教育活動〕

・学校運営協議会を核に、教育活動を保護者・地域に開き、情報の共有化を図り、校内外の安全体制の連携を深めていき、地域とともに教育活動を進めていく学校。

・教育活動のねらいや成果を保護者・地域に説明し、課題の改善に努め、成長し続ける学校。

・保護者・地域と連携し、地域の安全拠点となる学校。

④ 連続性を大切にする学校〔保幼小連携・小中一貫教育〕

・就学前から入学後の9年間を見通し、保・幼・小・中の連携を充実させ、保育園・幼稚園と小学校、小学校と中学校の接続を円滑にしていく学校。

⑤ 教職員が専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学び合う学校

・人権を重んじ、言動に責任をもつとともに、常に学ぶ姿勢をもち、切磋琢磨する中で組織の一員としての役割を果たせる教職員のいる学校。

- 人権尊重の理念を尊重し、職務を真摯に遂行する教師
- 「子供たちのために何ができるか」を考え、子供たちの良さを引き出せる教師
- 常に研究や修養に励み、学び続け自己を向上させ続ける教師
- 組織の一員として学校運営に主体的に参画する教師

(1) 児童が成就感や満足感を味わえる学校にするために

◎達成度 《A:よく達成できた B:おおむね達成できた C:もう少し D:達成できなかった》

項目	具体的な目標(○) 取組(・)	自己評価(☆) 今後の取組(△)	達成度
校内研究の充実 (重点)	<p>○校内研究では、年7回の研究授業を実施して、ICT機器などを活用し、主体的・対話的で深い学びとなるような授業改善を図る。</p> <p>・東京都体育健康教育推進校として、大学との連携を図って、校内研究を推進していく。年間7回の校内研究では、講師を招き、体育の授業についてご指導いただき、授業改善を図る。</p> <p>・ICT機器を活用したり、ペア学習やグループ活動をしたりして、多様な意見を出し合い交流することで、考えを広げたり深めたりすることができるような授業実践を、年間を通して進めていく。</p> <p>○年間を通して、全校児童が意欲的に取り組めるような日常的な運動を取り入</p>	<p>☆東京都体育健康教育推進校の成果報告会に向けて、7回の研究授業と成果報告会での公開授業などを行ってきた中で、授業改善が図られ、深い学びに関するアンケートでは、肯定的な回答が増加し、成果が表れていた。</p> <p>☆思考ツール等を使い、話し合う場面を設定した授業づくりを行ってきたことで、深い学びにつなげることができた。</p> <p>☆ICT 機器の活用については、授業の中でどう使っていくことが効果的なのかを検証していくことができた。</p> <p>△主体的・対話的で深い学びについては、校内での共通理解を図ることができたので、今後多くの教科の中で実践できるようにしていく必要がある。</p>	A

	<p>れ、楽しみながら体力向上を図るとともに、健康についての意識も高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携した運動の日常化の調査を行い、運動の日常化の充実を図っていく。 ・保健指導や食育等の取組を見直し、改善していくなかで、体力の向上や健康への意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆朝遊びやムーたんタイム、走るんジャーや跳ぶんジャー、1学級1取組などの運動の日常化を図る取組をしてきたことで、大学との連携をした調査では、外で遊ぶ児童が増え、遊びの種類も少しずつ増えてきたという成果が見られた。 ☆年間を通した保健指導や食育指導を通して自己の健康への意識が高まってきた。 △引き続き、健康教育については改善を図りながら取組んでいく。 	
<p>基礎・基本の定着を図るために</p>	<p>○第2回の八王子市の学力調査で、平均点で基礎的な内容では70%以上の定着、応用的な内容では60%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子市の学力調査の結果を基に、学力定着へ向けての各学年での取組を検討し、課題を明確にして、応用力が定着するような授業改善に取組む。 ・ドリルパークの確実な活用をし、個々の課題に応じた問題に取組ませ、基礎学力の定着を図る。 <p>○掛け算九九の確実な定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の九九コンクールを3学期に実施し、100%の定着を図る。 <p>○学年末には東京ベーシック・ドリルの診断シートで、児童に学習内容の80%の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルの診断テストでは、全学年80%の定着が図れるように、週1回の朝学習や補習の時間等で年間を通 	<ul style="list-style-type: none"> ☆第1回の学力調査を基に、取組を検討し、授業改善等を図ってきた。第1回の結果と第2回の結果を比較すると、応用問題に対する得点の向上が見られた。 ☆ドリルパークについては、日々の取組に加え、夏季休業中の課題としての活用を全校で取組むことができた。 ☆1月から2年生全員を対象に九九コンクールを開催し、100%の合格であった。 ☆東京ベーシック・ドリルの3学期診断テストでは、全学年で75.9%の定着であった。学年が上 	<p>C</p>

	<p>して取り組んでいく。</p> <p>○「家庭学習ナビ」を配布して、学習週間の定着を図り、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・学習用端末を活用した家庭学習の取組も、年間を通して適宜行っていく。</p>	<p>がるにつれて、定着率が下がっていくので、取組の改善を図っていく必要がある。</p> <p>☆夏季休業中の課題として、学習用端末を使った。しかし、通常の宿題の学習用端末の活用は難しかった。</p> <p>△学習用端末を活用した学力向上の取組については、引き続き検討していく必要がある。</p>	
地域教材や地域人材を活用した教育活動の推進	<p>○地域と共同した教育活動を推進し、地域の教材や人材を活用して郷土学習の推進を図っていく。</p> <p>・各教科の中で地域の公共施設や商店街などと連携して、地域巡りや施設見学、オンライン学習を実践していく。</p> <p>・生活科や総合的な学習の時間等では、地域の教材を活用した教育活動を進めていく。</p>	<p>☆全学年で、地域巡りや施設見学、公共施設や商店街と連携した活動を実践できた。</p> <p>△さらなる地域の教材の発掘をしていく必要がある。</p>	B
読書活動の充実について	<p>○新刊本や電子書籍を効果的に活用し、読書活動の充実を図る。</p> <p>・新刊本を学期ごとに紹介したり、電子図書を活用したりすることで、継続的に読書への興味が継続していくようにする。</p> <p>○年間を通して、読書週間を設定したり、おすすめ本の紹介をしたりすることで、読書に対する興味や関心を高めていく。</p> <p>・年3回の読書週間を設定し、読書活動の推進を図る。</p> <p>○朝読書や読み聞かせ、とんとん昔語り部の会の方に来ていただき、読書活動</p>	<p>☆新刊本の紹介や電子書籍の活用は、年間を通して行うことができた。</p> <p>☆年間3回の読書週間を確実に実践し、図書委員を中心に、読み聞かせに行くなど、読書週間の充実を図ることができた。</p>	C

	<p>の充実を図るとともに、2万冊を図書室の年間貸出数目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間に年間を通して、読み聞かせやとんとんむかし語り部の会の方に来ていただき、読書に対する興味や関心を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆保護者や地域の方の読み聞かせやとんとん昔語り部の会の方に継続的に来てもらい、読書活動の充実を図ることができた。1月の時点での貸出数は、約16,000冊であった。 	
<p>学力向上を図るための授業改善</p>	<p>○GIGAスクール構想を踏まえ、ICTの効果的な実践を検討し、全学級の全児童が活用できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級において、児童一人一台の学習用端末の活用を推進し、年間指導計画を基に授業実践をするとともに、全学年が当たり前のように学習用端末を活用することができるようにする。 <p>○教員がお互いに学び高め合える場の「七小道場」を実施し、授業力・指導力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主幹教諭、主任教諭が中心となって、教員同士が高め合う「七小道場」を、年間8回程度実施し、教員全体の指導力や授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆1年生も1学期中に一人一台の学習用端末の活用をはじめ、全学級の全児童が、活用できるようになっている。 ☆七小道場は、年間計画通り実施することができた。また、外部の研修に行った教員が、自主的に研修会を開き、人材育成に努めることができた。 ☆今年度は、東京都体育健康教育推進校の授業研究や、東京都の研究員、八王子市の研究生の授業などで、お互いに学ぶ機会が多くあり、指導力の向上を図ることができた。 △授業力の向上を図るとともに、学級経営力の向上も図れるような機会を設定していく必要がある。 	B

<p>キャリア教育の推進</p>	<p>○はちおうじっ子キャリアパスポートを活用して、将来への夢や希望を育み、目標に向けて努力する態度を養い、自信をもたせ自己有用感の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、「はちおうじっ子キャリアパスポート」を活用し、児童一人ひとりが目標設定や行事などの振り返りを行う。 <p>○地域を活用したキャリア教育を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の総合的な学習の時間では職場訪問を行い、2年生の生活科では職場探検を実施し、職業理解を推進していく。5年生では、職業調べをするなど、全教育活動を通してキャリア教育の推進を図っていく。 	<p>☆「はちおうじっ子キャリアパスポート」を確実に活用して、行事等の振り返りなどを行い、保護者とも連携して活用することができた。</p> <p>☆地域の協力のもと、公共施設や商店街での職場体験や職場訪問を行うことができ、キャリア教育を推進することができた。</p>	<p>B</p>
------------------	--	---	----------

(2) 児童が自分も友達も大切に、笑顔あふれる学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
<p>豊かな人間関係の育成</p>	<p>○児童会活動の中に、いじめに対する未然防止の取り組みを取り入れ、児童が主体的に考え行動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月のふれあい月間に合わせて、児童代表委員会がいじめ防止集会と思いやりをもって友達に接することができる企画を考え、主体的にいじめ防止への実践を行う。 <p>○「特別の教科 道徳」では、多面的・多角的に物事をとらえ、深く考えたり議論したりする授業や全教育活動を通して道徳的価値の自覚を促し、道徳的实践力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」では、多様な考えを共有する意見交流の時間を設定した授業実践を行い、道徳的实践力を育成する。 ・道徳授業地区公開講座では、講演会を 	<p>☆小中一貫の「サンキューツリー」の取組等を通して、思いやりの心の育成を図ってきた。児童代表委員会がいじめ防止集会を6月に実施し、いじめについて、全校児童が主体的に考えることができた。</p> <p>☆道徳授業地区公開講座では、本校のスクールカウンセラーに講演を依頼し、保護者・地域の方と共に、子供たちの健全育成について考える時間を設定することができ</p>	<p>B</p>

	<p>実施し、保護者とともに子供たちの健全育成について考える時間を設定する。</p> <p>○全教育活動の中で、「認め合う・励まし合う・高め合う」集団活動を通して支持的風土のある集団の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動の中での、「認め合い、励まし合い、高め合う」活動だけではなく、行事なども通して支持的風土のある集団形成を図る。 <p>○Q-Uを活用し、児童理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の Q-U の結果を分析し、教職員で共有するとともに、スクールカウンセラーとも連携して、全児童が安心して学校生活を送れるようにする。 	<p>た。講演会には、約 100 名の参加者があり、大変有意義な時間となった。</p> <p>☆いじめ防止の観点からも、支持的風土の集団形成を図ってきた。縦割り班活動も年間を通して行い、同学年だけではなく、異学年との交流の中でも、支持的風土の醸成を図ることができた。</p> <p>☆Q-U を活用して要支援群の児童の共通理解を図り、全教職員で、児童の見守りを行ってきた。</p>	
	<p>※Q-U とは、楽しい学校生活を送るためのアンケートで、学校生活意欲と学級満足度の2つの尺度で構成されています。八王子市では、6年生が年1回実施しています。</p> <p>○自己肯定感のアンケートを実施し、児童理解を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情測定尺度（東京都版）を活用して、全学年で年間2回以上のアンケートを実施する。その結果を考察し、自己肯定感が高まるような取り組みを検討・実施していく。 	<p>☆学習用端末を活用し、児童一人一人が自尊感情測定尺度の調査に取り組むことができた。年1回の実施となってしまったが、その結果を活用して、声掛け等の児童対応に活かすことができた。</p>	
<p>人権を大切に する児童 の育成</p>	<p>○全教育活動を通して、自分も友達も大切に する心の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝会での校長講話や各学年、各学級でも、年間を通して「自分も友達も大切に する」ことを意識させる。 	<p>☆朝会や行事を通して、常に、「自分も友達も大切に する」ことを意識させる講話を行うことが できた。</p>	<p>B</p>

	<p>○「いのちの日」を設定し、全学級でSOSの出し方に関する授業やいじめ防止に関する授業を実践し、「七小の子はいじめをしない、させない、ゆるさない」の徹底を図る。</p> <p>・いじめに対する指導については、週1回はいじめ対策委員会と毎週金曜日の生活指導夕会などで組織的に対応を検討しながら進め、丁寧な初期対応と保護者との連携を図っていく。</p> <p>○いじめ対策委員会を毎週実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に組織的に取り組む。</p> <p>・年1回の「いのちの日」の授業や、学期ごとのいじめ防止の授業や児童代表委員会の取組などの実践をしていく。</p> <p>○特別支援学級との交流や共同学習、都立学校との交流学习などを通して、障害に対する正しい理解と認識を深め、インクルーシブ教育を実践する。</p> <p>・特別支援学級「さくら」と通常級の交流については、児童の実態に応じて継続的に行っていく。都立八王子特別支援学校と都立八王子盲学校との交流を推進していく。</p>	<p>☆いじめ対策委員会を週1回確実にを行い、情報共有をして組織的に対応の検討を行ってきた。</p> <p>☆「いのちの日」の授業は全学級で確実に行えた。年3回のふれあい月間での取組等も確実に行うことができた。</p> <p>担任が不在となってしまった学級では、スクールカウンセラー面談を学期ごとに行い、いじめの未然防止を組織的に行うことができた。</p> <p>☆さくら学級と通常学級の交流については、行事での交流や一人一人の実態に応じた授業交流を確実に行ってきた。3年生とさくら学級の交流もクラスごと実施できた。</p> <p>☆特別支援学校との交流は、3年生から6年生までが実施することができた。八王子盲学校とは、教員研修を通して交流を深めることができた。</p>	
--	---	---	--

		△いじめの未然防止の取組については、今後さらに増やしていけるよう検討していく必要がある。	
基本的な生活習慣の定着	<p>○自ら進んで元気よく挨拶できる児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、全校朝会での講話や生活指導からの話、毎日の昇降口での挨拶や学期ごとに挨拶運動や小中一貫で地域と共に挨拶運動を行い、進んで挨拶のできる児童を育成していく。 <p>○児童理解を深め、各学年・学級の共通理解と統一的指導に努め、生活指導体制の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日の生活指導夕会では、全学級の児童を全教職員で見ていく意識を高め、共通理解と統一指導を徹底する。 <p>○家庭と連携して基本的な生活習慣の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なルールに基づいた指導を教職員全体で共通理解しながら徹底する。 ・七小のきまり「七小のやくそく」や SNS 七小ルール等を配布するとともに、保護者会等で確認をしながら家庭と連携していく。 ・セーフティ教室や、情報リテラシー教育を実施するとともに、家庭と連携を取りながら、自らの身を守る意識の向上を図る。 	<p>△いじめの未然防止の取組については、今後さらに増やしていけるよう検討していく必要がある。</p> <p>☆学校独自の挨拶運動では、学期ごとに縦割り班を活用して行うことができた。小中一貫教育の取組では、中学生が朝、第七小学校に来て、児童代表委員と中学生と一緒に挨拶運動を行えた。保護者アンケート結果はでは、挨拶に対する肯定的な意見が 86%であった。</p> <p>△挨拶運動等の取組を行ったときには、自主的な挨拶が増えているが、習慣化されていくような手立てを今後検討していく必要がある。</p> <p>☆配慮が必要な児童がいる場合には、パソコン内の個人データを活用し、確認しながら共通理解を図ることができた。</p> <p>☆「七小のやくそく」や SNS 七小ルールの配布や周知をしてきたが、家庭と共通認識で足並みをそろえて取組むことが難しいこともあった。</p> <p>△セーフティ教室や情報リテラシー教育は、現状を踏まえ内容を検討しながら、今後も継続して行く必要がある。</p>	C

<p>児童の心の居場所となる教育環境づくり</p>	<p>○教育相談の充実を図ることによって児童理解を深め、いじめや暴力の根絶、不登校の対応に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回、いじめ対策委員会と不登校対策委員会を開催し、いじめや不登校などについて、週2日配置のスクールカウンセラーや市のスクールソーシャルワーカーと連携を図り、対応策を組織的に検討し実践していく。 ・相談できる大人がいるかというアンケートでは、全児童がいるという回答ができるようにする。 <p>○不登校や不登校傾向にある児童に対して、一人一人に寄り添った対応の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応の部屋を整備し、別室指導支援員制度を活用して、個々の課題に応じた丁寧な対応を行い、外部とつながりのない不登校児童はいないようにする。 <p>○さくら学級においては、一人一人の心身の発達段階に即した個別指導目標を設定し、障害の程度・課題に応じた指導の充実を図るとともに、保護者との連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導目標をもとに、保護者との面談や日々の連絡などで、連携を図りながら教育活動を進めていく。 	<p>☆週1回のいじめ対策委員会は確実に実施し、共通理解をしながら対応の検討等することができ、早期発見、継続的な見守りが確実にできた。不登校対策委員会は適宜開催し、個別の案件についての方向性を確認し、不登校対策を進めていくことができた。</p> <p>☆相談できる大人がいるかどうかのアンケートでは、最終的には、全員の児童が「いる」と回答していた。</p> <p>☆不登校対応の部屋(なないろルーム)の整備が進み、他の部屋も活用しながら、一人一人の課題に応じた対応をすることができた。</p> <p>△不登校支援員の配置がなくなった後の不登校対策については、検討していく必要がある。</p> <p>☆個別指導計画に則り、個に応じた指導の実践を行ってきたので、大きな成長が見られてきている。</p> <p>☆日々の保護者との連携もしっかりと行いながら教育活動を行うことができた。</p>	<p>B</p>
---------------------------	--	--	----------

(3) 保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
学校運営協議会	<p>○学校運営協議会と地域・保護者が協働した学校運営を目指す。学校コーディネーターを懸け橋として、保護者、地域と協働できる体制を整えていく。</p> <p>・組織を明確にして、学校コーディネーターを懸け橋として、学校と保護者地域が保護者、地域が連携しながら、教育活動を実践していく。</p>	<p>☆読み聞かせやボランティア活動に、保護者・地域の皆様にご協力いただくことができた。</p>	B
情報公開	<p>○学校公開等、月1回は保護者が学校に来る機会を設定するとともに、ホームページ等を活用して情報を発信していく。</p> <p>・学校説明会や学校公開、道徳授業地区公開講座の実施、学校便りや学年便り、ホームページ、Home&Schoolによる積極的な情報提供を行う。</p> <p>・ホームページは、学校での教育活動を知ってもらうために、毎日更新をする。</p>	<p>☆行事や学校公開等には、多くの保護者や地域の方が来てくださった。</p> <p>☆個人情報に配慮しながら、情報発信は年間を通して、ほぼ毎日行うことができた。</p>	B
学校改善	<p>○保護者や地域の方の思いや願いを受け止め期待に応える学校改善に取り組む。</p> <p>・保護者・地域アンケートを基に、地域や保護者の意見を参考に、改善できる点については、早急に対応していく。</p>	<p>☆保護者アンケートについては、全体への回答と個別に回答が必要なものについては、個別に対応してきた。行事アンケートについても、学校からの回答をしていくようにした。</p>	B

(4) 連続性を大切にしている学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
保・幼・小連携と小中一貫教育について	<p>○第七中学校区小中一貫教育においては、各校との連携を図り、授業公開などを行い、交流を充実させる。</p> <p>・小中一貫教育の具体的な取組を確実に実施し、年3回の小中一貫教育の日の充実を図り、円滑に進級できるようにする。</p> <p>○保育園や幼稚園との連携を深め、1年生の不登校0を目指す。</p> <p>・1年生の不登校は0という目標を達成するために、近隣の保育園や幼稚園と情報交換や授業観察を実践するとともに、スタートカリキュラムを活用して、円滑な接続を図り保育園や幼稚園との連携を図る。</p>	<p>☆今まで行っていた小中一貫教育の取組に加え、今年度は、6年生が第七中学校の合唱コンクールの見学を実施することができた。児童生徒間の交流の充実が図られてきている。保護者アンケートでも89%の保護者に取組が理解されていた。</p> <p>☆近隣幼稚園・保育園の年長児と1年生が交流をしたり、近隣保育園児が行事を見に来たり、校庭を使って運動したりするなど、連携を深めてきている。1年生の登校渋りの児童が数名みられているので、引き続き、保護者と連携した丁寧な対応をしていく必要がある。</p>	B